

【基盤研究(S)】

人文社会系 (社会科学)



研究課題名 日本は無形資産投資に関する実証研究

学習院大学・経済学部・教授

みやがわ つとむ
宮川 努

研究分野：社会科学、経済学、経済政策

キーワード：経済政策、日本経済、経済発展

【研究の背景・目的】

本研究は、近年生産性を向上させる重要な要素として認識されている無形資産について、マクロ、産業、企業レベルでの包括的な研究を目指し、経済、産業及び企業の成長要因を探ることを目的とする。マクロ・レベルでは、無形資産投資の計測を国際比較可能なものとした上で、マクロ経済への影響を推計する。産業レベルでは、マクロ・レベルでの計測結果を利用し、産業別の無形資産蓄積と各産業への成長効果を計測する。そして企業レベルでは、組織管理や人的資源管理の定量化と企業パフォーマンスへの影響を見ると同時に、無形資産投資と資金調達との関係を研究し、結果をマクロ・レベルの研究に反映させる。

【研究の方法】

本研究では、研究対象をマクロ、産業、企業の各レベルに分けて行う。最初にマクロ・レベルで無形資産投資の計測を精緻化する作業を行い、その結果をマクロ経済への効果測定と産業レベルの無形資産推計及び企業レベルでの無形資産投資と企業パフォーマンスの関係を調べる推計に利用する。一方、企業レベルのインタビュー調査で得られた結果についてもマクロ・レベルでの推計にフィードバックし計測の改訂を行う。研究成果については、マクロ、産業レベルについては、無形資産の計測方法を巡る国際コンファレンスを行い、推計方法について国際的な相互検証を行う。一方、企業レベルでは、日韓の共同インタビュー調査の結果をもとに中間的な国際コンファレンスを経て、最終的には欧米の企業における無形資産の役割との比較も含めた国際コンファレンスを開き、研究成果の報告を行う。

【期待される成果と意義】

マクロ・レベルでの無形資産投資の計測は、すでに多くの先進国で進められているが、アジアでは日本のみであり、今後この分野でアジアをリードしていくことがで

きる。また日本は欧米に比して豊富なデータを有するため、本研究は、欧米先進国でも試みられていない産業レベルでの無形資産投資の計測を視野に入れている。企業レベルでの人的資源管理及び組織管理に関する研究は、Bloom and Van Reenen (2007)で米英独仏4カ国の製造業に関する分析が行われている。これに対して我々のインタビュー調査は、サービス業も含み、かつ日本と韓国というアジアの企業を対象としている点で意義がある。さらにインタビュー調査を改良させることにより、アジア企業の特徴を反映したユニークな研究が期待できる。また資金調達と無形資産投資の関係を調べる研究については、これまで無形資産投資を研究開発投資に限ったものとしては見られるが、無形資産を包括的に捉えて資金調達との関係を調べた研究はなく、その意味で本研究の意義は大きい。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ Bloom, N. and J. Van Reenen (2007), "Measuring and Explaining Management Practices across Firms and Countries," *Quarterly Journal of Economics*, 122(4), pp. 1351-1408.
- ・ Fukao, K. et, al (2009), "Intangible Investment in Japan: Measurement and Contribution to Economic Growth". *Review of Income and Wealth* 55, pp.717-736.

【研究期間と研究経費】

平成22年度－26年度
62,200千円

【ホームページ等】

(研究概要、成果等はWebページにて公開予定)
e-mail: 19990230@gakushuin.ac.jp